

「1800年の歴史を刻む住吉神社周辺を巡る」

大阪歴史案内人 沖本然生

住吉大社 創立

住吉は古代より海上交通の、海上守護司る住吉大社中心に栄えた。社伝によると神功皇后摂政 11 年(211)卯の年卯月卯日の鎮齋とある。ヤマト政権の玄関口にあたる難波(なにわ)に鎮座して、遣唐使をはじめ大陸との渡航を守り、奈良時代以前より外交・貿易、航海の神、祓いの神、歌の神、またあらゆる産業を守護する神として称えられてきた。2011 年に 1800 年祭を挙げる。実際の年代では干支二運(120 年)をくり下げて5世紀初頭 450 年前後と推測される。

反橋(太鼓橋)

昔は「この橋を渡るだけでお祓いになる」といわれてきた。歩きにくいのは明治時代まで神以外がこの橋を渡ることを許されていなかった。この橋を渡るのは、神さまに近づくのに罪や穢(けが)れを祓(はら)い清めるためです。反っているのは、地上の人の国と天上の神の国とをつなぐ掛け橋として、虹にたとえられていました。

川端康成が、小説『反橋』で「上るよりもおりの方が怖い怖いものです」と書いたことでも知られています

誕生石

源頼朝の寵愛を受けた丹後局(たんのつぼね)がここで出産した場所と伝えられ、その子が薩摩藩「島津氏」の始祖・島津忠久公です。源頼朝の寵愛を受けて懐妊したが、北条政子により捕えられ殺害されるどころ逃げる。

住吉神社の特徴

神功皇后が住吉三神を祀るに適した場所を探しているとき住吉三神自身自身がこの辺りで皇后の船を止め

「このあたりでマジで住み良いで」といったから住みよし>住吉となった。住吉、墨吉、住之江皆同意

第一本宮 底筒男命(そこつつのをのみこと) 第二本宮 中筒男命(なかつつのをのみこと)

第三本宮 表筒男命(うはつつのをのみこと)

第四本宮 息長足姫命(おきながたらしひめのみこと) - 神功皇后(じんぐうこうごう)

配置に縦3本宮が並び第4本宮だけがその横にある。あたかも大海をすすむ船団のように立ち並び縦は魚鱗の備え、一社の開くは鶴翼の構え

大阪市内唯一の国宝建造物御本殿は「住吉造」といわれており、神社建築史上最古の特殊な様式で国宝に指定。

1) 柱・垂木・破風板は丹塗り、羽目板壁は白胡粉塗り

2) 屋根は桧皮葺で切妻の力強い直線

3) 出入り口が直線型妻入式

切妻=本を伏せたような山形の形状をした屋根

妻入=妻側から出入りする

「平入り」(平入、ひら入り)や「妻入り」(妻入、つま入り)とは、建物のいずれの面に正面出入口があるかによって分類した様式で、平入りは上述の「平」の側に出入口があるものを指し、「妻」側から出入りするものを妻入りという。

東海道膝栗毛のゴールは住吉さん。お土産として蛤が紹介される。明治天皇も美味しかったと仰った。

一寸法師、光源氏、ブライダル都市

遣唐使

航海の発着地としても古代有名であった。「万葉集」、「続日本書紀」に「遣唐の四船難波津より進発」とある。

遣唐使船は住吉の津=港から船出した。多くは4隻よりなる船団で、これぞ住吉大社がまさに4隻の船が西に向か

って行く姿そのままに仕立てたのであろう。代々、神主として奉仕した津守連としては遣唐使として唐に派遣された。

灯籠 650 余

全国の各業者から奉納された境内の燈籠は、約 600 基あります。当時は海上守護の祈願をこめて寄進したもので、広告塔としての意味合いが強かったといわれている。優雅で大きな形をしたものが多いです。また題字は名筆家に刻んでもらったと伝えられている。約 2,300 社の総本宮。

摂津国一宮 坐摩神社 建部大社(たけべたいしゃ) 近江国一宮 上賀茂神社(かみがもじんじゃ) 山城国一宮 河内国一宮 枚岡神社 和泉国一宮 大鳥大社

大海神社(たいかい)

うみぞこの龍宮城そのものを祀る。本殿の位置が前方後円墳の後円部。前方先端まで 200m の大古墳と判明。

磯齒津路(しばつみち)

日本書紀によれば雄略天皇の時代(5世紀後半)呉の国から渡来した織姫たちが通った古代の国際道路。住吉津から古代の奈良への幹線道路。歯のようにジクザク入り組んだ磯に沿った路だったため磯齒津路。道路それ自体がいまだ発見されていないため、今は「まぼろしの」ということになる。

一運寺

何故に所縁もないこの寺に赤穂義士の墓があるのかは。三つの墓は大石父子と寺坂吉右衛門の墓である。一運寺から西北二町ばかりにあった龍海寺というのがあった。明治に廃寺となる。この寺にこの三つの墓のみならず四十七士の墓がずらりと並ぶのである。龍海寺はかの天野屋利兵衛の菩提寺で、利兵衛より四代目の當主は任侠の人で当時赤穂義士の名声がすこぶる宣伝せられたので一つは世人への宣伝にもとの考えから、その菩提寺に四十七士の墓を建て持佛堂内には四十七士の木像を安置したのであった。維新の際廃寺となる。一運寺の当時の住職は折からこれを見て驚き嘆きあやうく残された三基を一運寺内に運び供養して建立したのであった。

生根神社

少彦名命(スクナヒコナ)を守り住吉大社神社より古いと言われている(日本書紀では(1900年)前)古来 大國主の国造りに際し、波の彼方より=ガガイモの実とされるに乗って来訪した

西成区と東成区境界碑

西成区は江戸時代 蔬菜類(野菜)の大供給地。天満青物市場まで遠いため三郷南部で立売もおこなう。そのご木津市場となる。郡名は和銅 2 年(713)好字二文字化による。それまでは難波小郡(西成郡)難波大郡(東成区)

閻魔地藏尊(六道の辻)

地藏が閻魔大王に化身したもの。謂われは明和年間に難波の浜から背負ってきたところ此の地で急に重くなる。六道の辻は、古来より“あの世とこの世の分かれ目”“冥界の入口”と、いわれてきました。

六道(ろくどう)は、仏教で説かれる6つの世界のこと

〈六道〉地獄道・餓鬼道・畜生道・修羅道・人間道・天道

人間界で死ぬと、49日間さまよい、7日ごとに供養されることにより、上位の世界に導かれるといわれる

〈六道輪廻〉

迷いのある生命は死後、生前の行いにより、6つのいずれかの世界に転生し、これら六道で生死を繰り返すといわれる。悟りを開き仏として目覚めれば、入滅後に、この苦しみの輪廻する世界を脱することができるといわれている

宝泉寺(ほうせんじ)

神ノ木停留場付近で掘り出された巨石を十三に等分した、日本では珍しい十三仏の石仏(16世紀頃制作)が祀られています。薬師如来、弥勒菩薩、地藏菩薩の3体は他の石仏に比べて小さく、「石工が計算違いをした?」という説もある。

また「幽霊の片袖」の発祥地であるという話。

池田屋

築130年前。池田屋さんは四百数十年前からの旧家で、代々、住吉大社領の庄屋を務め、幕末までは酒造と味噌の醸造を兼ねていた。前の道路は熊野街道と磯齒津路の角で屋根の高灯籠が特徴。

蠟燭石

ろうそくに旅の安全を祈って街道へ歩き始める。駒止の石とも云われているが、よくわからない。

初辰参り (発達)

奇数は左 偶数は右を上げている 左は人を 右手はお金を呼び込む

1年間で12体、4年で48体 始終発達 48体の子猫は中猫に交換 さらに48体の子猫と中猫2体で大猫に交換
ここで12年さらにお左右の猫を揃えるまで24年

①種貸社(たねかししゃ)願いの元種 一粒稲種

②楠瑠社(なんくんしゃ)願いのみのり 稲穂

③大歳社(おおとししゃ)願いの収穫 神米

京都今宮神社、伏見稻荷神社にもある

五所御前

住吉大神を祀る土地を探していたところふと見上げると御神木に3羽の白鷺が舞い降りた。白鷺は住吉大神の使い。ここへお祭りしたと伝わる聖地です。石の玉垣のなかにある砂利には「五・大・力」と書かれた小石があり、これを集めてお守りにすると心願成就にきくとされます。

「五大力尊」は、「不動明王」(中央)、「大威徳明王」(西方)、「軍荼利明王」(南方)、「降三世明王」(東方)、「金剛夜叉明王」(北方)の五大明王の総称で、この仏様を信仰すれば、昼夜をとわず影が寄りそって、その人の御身を守り、家を護り、あらゆる災難を払い除け、その身は無事息災、一家は安泰隆昌になるようご加護下さるのです。

日本三舞台

秀頼公寄進で重要文化財。ここに雅楽を演奏するところ。

浅沢社(あさざわしゃ)

芸事や美容の願いに福を授かる。女性の守護神。カキツバタの名称として万葉集にも詠まれた。杜若の合い花言葉「幸運を招く」。

大歳社(おおとししゃ)

収穫の神であるところから、集金満足、商売繁盛、家内安全、諸願成就に神徳あり。ここで「初辰まいり」を締めくくる。境内の「おもかる石」。願い事を祈念し、この「おもかる石」を持ち上げてみてください。この石を持ち上げた時、軽く感じれば願いが叶い、重く感じれば叶わないといわれています。不思議な試し石です